

# 岡山県版レッドデータブック（抜粋）及び指定理由

## ミチノクフクジュソウ



絶滅種	野生絶滅種	絶滅危惧種	危急種	準危急種	情報不足	希少種	留意種
-----	-------	-------	-----	------	------	-----	-----

生育情報：山地の明るい夏緑樹林内に生える多年草。根茎は太く短く、多数の根を出す。茎は高さ 15～30cm、下部に芽を包んでいた鞘状の大きな鱗片を残し、その腋から枝が伸びる。葉は長柄があり、互生して、3～4回羽状に細かく分裂。花は黄金色で1個～数個、径3～4cm、数個のがく辺と20～30個の花弁がある。花弁は長さ2cm内外。花期は3月～4月。果実はそう果で、倒卵形、長さ4～5mm。ふつう開花後に茎が伸び、葉が広がる。まわりの樹木の葉や大型の草本が茂る5月下旬には実を結んで活動を終える。

分布状況：新見市などの県中西部の石灰岩地を中心に分布するが、急激に減少した。自生地と思われる場所では、堀取られた跡が確認されたこともある。北海道、本州、四国、九州に分布する。

存続を脅かす要因：森林伐採、業者・マニア採取。

特記事項：人家のまわりで見られることが多いため、植栽された可能性が高いと思われる。

岡山県版レッドデータブックではフクジュソウの名前で登録されている。

### 指定理由

残された自生地は傾斜のある管理草地に限られており、生育環境の維持・改善を図る必要がある。また生育地が極めて限定的であり、個体数も少ないため、採取・乱獲等の防止策を講じる必要がある。